平成２９年度

吹田市教育研究大会報告

平成２９年１１月２０日発行　吹田市教育研究大会事務局

８月２８日(月)に平成２９年度吹田市教育研究大会を実施しました。本大会は、教職員と教育委員が一堂に会し、吹田市の教育の方向性を共通理解する場として平成１９年度に始まりました。以降、本大会は形態を少しずつ変更しながらも、本年度まで続いています。今年度も「今　吹田から　未来(あす)の力を　～地域に根ざした質の高い公教育の創造～」をメインテーマとし、重点課題である「グローバル社会を生きぬくコミュニケーション力の育成」をサブテーマに据え、前半に本市教育委員のみなさまからの力強くあたたかなメッセージをいただき、後半では和歌山大学教授の江利川 春雄先生に「子どもが主体的・協同的に学びあう関係づくり」をテーマに御講演いただきました。協同的な学習や不登校、非行といった今日的な課題に関して、具体的な事例やデータに基づき、わかりやすく御講演いただき、大変有意義な学びの時間となりました。

以下に教育委員メッセージと江利川先生の講演の要旨を紹介します。

〔教育委員メッセージ〕

谷口委員長

今回の大会のテーマの副題に、「グローバル社会を生きぬくコミュニケーション力の育成」とありますように、このグローバル社会を生きぬくコミュニケーション力とは、世の中のことに広く関心を持ち、そして、他の人と積極的に関わる中で、自分の意見を相手に伝えたり、相手の意見に耳を傾けたりということができる力だと思っております。

全ての子どもたちが、ともに学ぶことができ、喜びが感じられるような、そういう素晴らしい教育を吹田に花咲かせて頂きたいと考えております。今日ここに来られている方々におかれましても、各校各園に帰られまして、今日の学びを、また活発に議論して頂き、教育活動をさらに充実したものにしていただけるとことを期待しております。

大谷委員長職務代理者

学校現場にいらっしゃる教職員の皆様と共に、吹田市の子どもたちが、強く逞しく健やかに育つように、私もチームの一員として皆様方と頑張りたいと思いますので、これからもよろしくお願い申し上げます。本日の教育研究大会の学びが、吹田市の子どもたちに届き、成長につながることを楽しみにしております。

和泉委員

弱者の視点でもって、手を差し伸べて頂き、教育現場の活性化、そして、子どもたちの思いやりと協力といった部分の芽生えを、支えて頂くことができれば、非常に素晴らしいことだと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

安達委員

言葉と言うのは1つの道具であって、それだけが自由に操れればよいというものでもなく、大切なのは自分で何を考え、何を発信したいのかだと、子どもと話をすることがあるのですが、親としても主体的に物事を考えて発信する力をどうつけさせてやればいいかと悩ましいところです。一緒に勉強させて頂けたらなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

福田委員

日本の文化というと大げさですが、吹田や大阪をグローバルにお伝えすることは大事だと思います。その時には、相手の考え方や捉え方が違うと思いますので、それぞれが尊敬の目で、相手の理解、立場に立って、お伝えしていくことが大事だと思います。

〔梶谷教育長 閉会あいさつ〕

本日は、協同学習の魅力、また英語の新しい教科化に向けた対応について、わかりやすく、また貴重な示唆をいただきました。既に協同学習に取り組まれている学校も、随分と自信になったのではないかと思います。協同的な学習によって、眠っている子どもたちが輝いていく姿を見たとき、改めて私たちの授業の在り様を振り返る機会となりました。

「つながり・信頼・共感」のあるチームづくりを土台としながら、吹田のすべての子どもたちが、ともに学ぶことの喜びを感じ、輝く笑顔で学校・園の生活が送れるよう、学校・地域・家庭がしっかりとつながり、教師力、学校力を更に築いていただきたいと思います。

〔和歌山大学教育学部　教授　江利川先生　講演要旨〕

江利川先生からは、次期学習指導要領改訂案の中で示されている「主体的･対話的で深い学び」の在り方について、「協同学習」を核とした授業改善や、子どもたち同士の学び合いを通じ、学力と人間関係力を高めていくという、今後の方向性を示していただきました。

ある中学校の授業変容の様子が映像で映し出され、「下を向いていた子が、顔をあげてどんどん輝いていく。こういう子どもの姿を見るのが一番幸せになります。がんばりましょう。おもしろいですよ、協同学習って。」そうエールを送ってくださいました。

それと共に、“アクティブラーニング”は、単に教室が賑やかになれば良いということではなく、子どもたちの頭の中が、活発になることであり、その源となる、「つながり･信頼･共感」の土壌を築くことが、子どもたちの学びや、授業改善につながり、反対に、先生と子ども･子どもと子ども･また先生同士などの関係が悪いときは、学びや高め合いは浅いものになる、という危惧もお伝えいただきました。

〔研究大会について〕

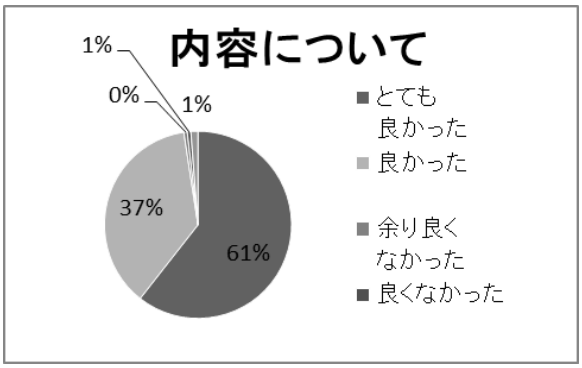
1. 教育研究大会参加者　１９４名　　内訳

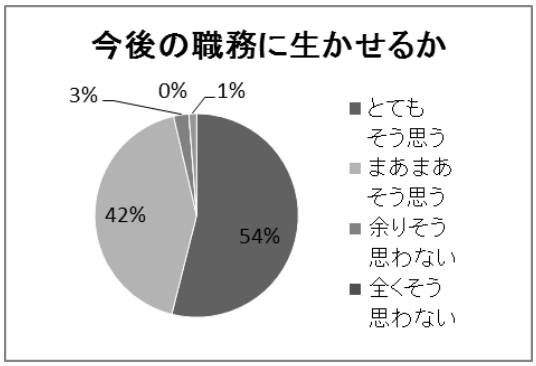
	幼稚園	小学校	中学校	合　計
人　数	17 人	122 人	55 人	194 人

2. アンケートについて

■ 回収数　１６５通（回収率 85.1%）

■ 設問「教育研究大会の内容について」





項　　目	人数
とても良かった	100 人
良かった	61 人
余り良くなかった	1 人
良くなかった	1 人
無答	2 人

項　　目	人数
とてもそう思う	89 人
まあまあそう思う	70 人
余りそう思わない	4 人
全くそう思わない	0 人
無答	2 人

ー参加者の声からー

〇たくさんの実践やデータから、協同学習の進め方や効果がよくわかりました。

〇「つながり・信頼・共感」をもって、子どもの居場所をつくっていきたいです。協同学習の良さを実感しました。

〇アクティブラーニングにより子どもが変わっていく姿が印象に残りました。「どの子も学びたい」と言う言葉に共感し、背筋が伸びました。

〇アクティブラーニングの魅力を、映像を見ながら学べました。関係性の構築、土壌作りの大切さを聞き、改めて、子どもが自ら学べる仕掛けづくりができるように、教師間でも会話を進めていきたいと思いました。

〇アクティブラーニングという言葉だけが歩いている印象でしたが、実際、アクティブラーニングをしている授業写真の子どもの表情の変化を見ると、目の前の子どもたちのために、もっと工夫しなければいけないと思いました。アクティブラーニングを正しく理解し、子どもも教師も楽しめる授業をつくっていきたいです。